

みらい とびら  
未来への扉

高等特別支援学校 支援部 第168号発



行日：令和6年5月31日（金）

新年度が始まり、早くも2か月が過ぎました。生徒たちは新しい環境にも慣れ、教室や廊下からは笑い声が聞こえるようになってきました。先日、本校の校医でもある宝塚三田病院（精神科）の院長、山西先生とお話する機会がありました。その中で、保護者からの質問に以下のように答えておられました。

保護者：我が子に成長がみられないが、大丈夫なのでしょう？

山西先生：成長は必ずしていきます。今は学校というコミュニティの中で生活していて、それで成り立っています（本人が困っていない）。しかし、社会に出ると異年齢の人との関わりが増え、高校生の距離感とは違ってきます。その中で急成長し、大人としての振る舞い方を身につけていきます。人間としての根本は変わらないですが、振る舞いを身につけることも成長の一部です。

保護者：同じことを注意しても聞かないのですが。

山西先生：注意するタイミングが大切です。ケンカした後や怒られた後は、耳に入らないし、本人との関係性も悪くなります。関係が良いときに伝えることが必要です。親の「こうあるべき」という考え方が、果たして本人にプラスになるのかも考える必要があります。また、過度なプレッシャーを与えなくても良いでしょう。

保護者：友達に手を出してしまったことがあります。

山西先生：本人からすれば、友達とのコミュニケーションであったり、仲良くなりたかったのではないのでしょうか。しかし、暴力はダメだということを事前に教えておく必要があります。約束させておくことも重要です。

同様のことで悩んでおられる保護者の方もいらっしゃると思います。正解は1つだけではありませんが、ぜひ今回の内容を共有し、お子さんとの今後の関わりへの参考にさせていただきたいと思います。また、山西先生は、保護者の方が愚痴を吐いたり相談できる場所が必要だとおっしゃっていました。適切な相談を行うことで、子どもの健全な成長をサポートし、家族全体の生活の質を向上させることもできます。ぜひ保護者自身の居場所も見つけてください。

教育相談は、電話（079-563-0689）、ファックス（079-563-5632）で支援部宛てか、担任を通じてお申し込みください。本校では、スクールカウンセラー（臨床心理士）による「カウンセリング」を実施しています。生徒はもちろん、保護者の方の相談も承っています。こちらは、担任を通じてお申し込みください。

